

## シロトキの人工育雛と自然育雛を併用した繁殖成功例とそこから得られた知見

多田竜海

(横浜市立野毛山動物園)

横浜市立野毛山動物園で飼育しているシロトキでは 2022 年より繁殖行動が見られ、このペアでは初めて繁殖し、2 クラッチで 1 羽ずつ雛が自然孵化したが 5 日齢と 8 日齢でそれぞれ死亡した。2023 年では疑卵と卵を交換し卵を採取して人工孵化させ、人工育雛で育てた後、抱卵中の親鳥に雛を戻して親鳥に育雛させることを計画した。1 クラッチ目は後期中止卵だった。2 クラッチ目では 2 羽孵化し、そのうちの 1 羽を巣に戻したところ、親鳥の育雛する様子が確認できた。雛も親に対して餌乞いや、飼育員から逃げるような行動も見られるようになった。その雛は 25 日齢に死亡した。剖検の結果、落下による打撲が死因と判明した。このような事故を防止するため、次の産卵前に巣の下に落下防止用の板を取り付けた。3 クラッチ目でも 2 羽孵化し、そのうち 1 羽を巣に戻した。この雛は順調に成育し、23 日齢頃から落下防止用の板の上と巣を行き来する様子が頻繁に観察されるようになり、33 日齢で巣立った。